勤労感謝の日に「ほう賞式」を挙行

功労者76名、11団体を表彰

さる11月23日の勤労感謝の日に、「市ほう賞式」が市民会館で行われました。

今年「ほう賞」を受けられたかたたちは、個人76名と11団体。市政のために、あるいは市民の模範として尽くされたかたたちです。

この日、市長から記念品と表彰状が、それぞれの功労者に贈られました。

なお左のページで、社会福祉事業に長年寄付を続けられた酒井さんのお話を紹介します。

表彰を受けられたかたがた

今年表彰を受けられたかたは、次のとおりです。

（順不同・敬称略）

〔市議会の議員として十年以上在職したかた〕

灰野　六衛（川口）
小川　政栄（古津）
市島　卓也（金沢町三）
小島　重三（中沢町）
渡辺　譲（小口）
帆苅　二三（七日町）

〔市の非常勤の特別職に十年以上在職したかた〕

区長
小林　権一（小戸上組）
三浦長太郎（滝谷町）
小栗　精一（福島）
農家組合長
川崎　徳司（山谷町三）
小林徳次郎（栗宮）
杵鞭　昇一（七日町）
公民館分館長
風間　吉平（川口）
荒木喜一郎（金沢町二）
体育指導員
江部　勲（本町四）
消防団関係のかた
岡田　幸二（梅ノ木）
田中　清（子成場）
笠原三喜男（北上新田）
笠原富司男（北上新田）
上田　一彦（子成場）
目黒　紘（金津）
古川　秀吉（小屋場）
早川　正作（梅ノ木）
佐藤文一郎（大鹿）
帆苅　周一（草水町一）
大島　忠夫（金津）
鈴木志都夫（梅ノ木）
斎藤　実（草水町二）
藤田　良作（田家二）
小出　博（東島）
小林　薫（金津）
阿部　吉弘（小屋場）
長谷川良衛（覚路津）
湯田　貞男（覚路津）
坂井　恵（大蔵）
須藤　博夫（梅ノ木）
広瀬　庄永（梅ノ木）
天野　和夫（小口）
小林　朝男（栗宮）

〔市職員として二十年以上在職したかた〕

松本　祭一（中野）
小柳　忠（滝谷町）
樋山五郎次（山谷町二）
関口　忠治（古田）
長沢ヨシエ（新町二）
石川新一郎（秋葉一）
石川喜代男（中新田）
神田　昭一（満願寺）
浜田　芳夫（金沢町四）
二平太迪子（程島）
滝沢　悦子（秋葉一）
広橋　久子（金沢町二）

〔科学、芸術、技芸、教育、その他文化の向上に尽くされたかた〕

横木　利坪（朝日）
小合中学校PTA

〔保健衛生または体育の向上に尽くされたかた〕

高塚　壮一（善道町二）
大原きくえ（岡田）
増山　愛子（本町三）

〔災害防止、人命救助に尽くされたかた〕

小川　勝一（中沢町）

〔貯蓄、納税のために尽くされたかた〕

熊倉　辰雄（北上新田）

〔社会福祉の増進に尽くされたかた〕

程島みどり会
土田　真一（下新）

〔市行政に協力されて、その功績が顕著であるかた〕

坂井　やま（車場）
杵鞭吉次郎（七日町）
鵜川　肇夫（程島）
五十嵐春吾（東島）
浅間　傅作（七日町）
新津グランド劇場
山口　正弘（新潟市）
東京海上火災保険株式会社
新津商店街協同組合連合会
坂口献吉詩碑建設世話人会
新津ロータリークラブ
太田　藤吉（本町三）
有限会社日拓建設
新津ライオンズクラブ
渡辺　貞子（小口）
桂　佑誠（本町一）
宮尾　均（新潟市）
鈴木　行雄（新栄町）
酒井　三直（朝日）
大光相互銀行新津支店光友会行員一同
岩城登志子（新町一）
小林　ユキ（塩谷）
渡辺キミノ（朝日）
藤田　孜（山谷町一）
宮口　一三（新潟市）
徳永　富治（新潟市）
新津市五農協連絡協議会

お買物、ご用命は市内で

御誕生祝から……御仏事まで
いけばな材料・盛篭・花束
新町1丁目大橋ギワ
小林生花店
TEL 2－1080・2－5707
（各流派いけばな教室案内所）

日曜大工用品販売
電動工具・大工道具・金物・木材他
休日 7日・17日・27日
木造住宅なら新築でも修理でも
(有)新生工業
新町1丁目（ガス会社の前）
TEL 2－1873・夜2－0315

市長雑感 (97)

奉仕の心の花を咲かせたい

「社会福祉」「ボランティア」――こんな言葉が口にされるようになって、もう久しい。戦前には、ちょっとお目にかかれなかった言葉である。

「幸せ」「そのための奉仕者」という意味にとっても、大方マトを得ているように思うが、最近では、それに対する気持ち、価値観に戦前とは大きな変化を見い出せるような気がする。

たとえば、大量生産、大量消費、使い捨てといった時代に象徴されるモノへの意識、あるいは、高度成長からきた自然破かいや心の荒廃など、モノ、カタチよりも、人間の心、豊かさ、ゆとりなどが求められてきているように思えるからである。

いつの会合だったか、ある先生の話しの中に、自分より苦しみ、悩み、困っている人に、なんとか手を貸してあげようと思う心と行動に〝福祉〟を見い出せることができないだろうか、というのがあった。だとすれば、そのための自発的無償奉仕者「ボランティア」は〝ぬくもりある社会の復活〟に欠かせない存在といえるのではないだろうか。

市では、毎年、市政や産業、市民福祉などの伸展に、積極的な援助、協力をいただいた方がたを表彰している。今年も、そのほう賞式を去る勤労感謝の日に挙行した。

例年のことながら、被ほう賞者の中には、青少年の健全育成やスポーツ、文化の向上に、あるいはまた、卒先した生活環境の美化・維持に、ときには地域住民とのパイプ役ともなって、行政にたり得ない献身的な善意の奉仕が多くある。

こうした今も、あの街角に、あの路地に、まだまだ多くの人たちが、私どもの知らない善意の花を、そっと咲かせているに違いない。ほう賞という機会だけで、決してむくわれることではないが、施政者として感謝をしつつ、こんな奉仕という心と行動の芽ばえを大事にしていきたいと思う。

一昨年の訪中のさいだった。何人かの労働者に「仕事は楽しいですか」とたずねたことがある。「もちろんです。私の仕事が、何かに役立てられていることで満足です」――一様に、通訳を通じこんな意味の返事が返ってきたことをよく覚えている。これも、広い意味での奉仕の心では……。

「人間は、どこかでだれかの世話になっている」だれかのこんな言葉を思い出した。

志田保

晴れの表彰を受けられた功労者のみなさん

皆勤手当を毎月福祉事業へ

「お役に立てば…」と酒井さん

酒井三直さん

このたびの「ほう賞式」で表彰された人の中に、酒井三直さん（朝日）がいらっしゃいます。

酒井さんは、「社会福祉事業の足しにしてください」と、毎月二千円ずつ、市へ寄付を続けられてきました。今年の十一月ですでに七十回目を数えましたが、いままで広報紙上では、ご本人の希望で「匿名」扱いにしてきました。

酒井さんは、これを始められた動機を次のように話されています。

「ほんのわずかなお金ですが、昭和四十九年から郵便で送り始めたんです。四十九年は、ちょうど〝福祉元年〟などといわれた年で、それをきっかけに…。少しでもお役に立てばということで、会社からもらう皆勤手当を寄付していただけなんですよ。人間は何といっても健康が一番ですが、世の中には、働きたいと思っても体が悪くて働けない人がおおぜいいます。私はいま六十歳ですが、幸い健康にも恵まれて、元気に働いていますからネ。それに、一人ひとりの力は小さなものですから、なるべくおおぜいの人から社会福祉というものに関心を持ってもらって、大きく盛り上げていきたい、という願いもこめて、いままで続けてきたんです」

お買物、ご用命は市内で

《新発売》
にいつのふるさと"幸清水"を新しい感覚で開発しました
幸清水 1ヶ100円
小豆をプレッシュバターで焼いたケーキです
抹茶の香りのするケーキです
冷蔵庫で冷たくしてめしあがるとおいしいです
ホイルで焼いたため日持のよいケーキです
にいつ
Coke & Coffee OSAKAYA オサカヤ
本町2　TEL 2－0112